

「私たち愛の浜園に課せられた使命とは・・・。」この事を常に意識することで、おのずから進むべき方向性が見えてくるように思われます。特に、私たち入所サービスを提供する事業所においては、利用者との24時間のかかわりであり、人生の大半を施設で過ごされる利用者もおられます。そのために、その利用者の人生そのものが、我々の支援に左右されると言っても過言ではありません。一人一人が実り豊かな人生を送れるよう、まごころをもって支援に努めることが、我々の使命です。また、昨年3月にスタートした GH フレンド4も、そのような思いからの計画でした。福祉サービスが不足するなか、止む無く奄美(シマ)を離れざるを得なかった障がいのある人たちの、「奄美(シマ)で暮らしたい。」との思いに寄り添うために、僅か6名ではありますが定員を増やし、内2名を鹿児島島の施設から迎え入れることができたことを、大変うれしく思います。そして今、緊急を要する人達へのサービスである短期入所利用の希望者が増えつつありますが、奄美市唯一の障害者支援施設として私たちが行動を起こすことで、ご家族の負担軽減になることや、利用者の困りごとが解消されることを実感しています。その立場にある者が、困っている人々に対し、その立場を利用して手助けすることは、義務であり、また、使命でもあります。2019年度は、福祉施設としての使命感をより一層強く意識しながら、障がいのある人々との日々の生活の繰り返しの中で目標を見据えて取り組んでまいります。何卒、宜しく願いいたします。(施設長: 榮野)

お知らせ 家族会・面会日は5月5日(日)を予定しております。

4月行事予定表

1日(月): 身体体重測定
血圧測定
4日(木): 旧桃の節句
17日(水): 避難訓練
23日(火): 健康相談



相談事業所(ていだ)

平成25年10月に相談支援事業所が設立し、6年半が過ぎました。年々、件数も増え、170件以上になり、電話、相談で追われる毎日です。サービスを利用する利用者さんの困り事や目標、将来の夢等、ひとりひとりのケースに合わせて、話し合いを繰り返して、利用者さんが「相談してよかった。」「明日から頑張ろう。」と笑顔になれたら・・・と思い取り組んでいます。新時代になっても私たち「ていだ」のモットーの「思いやり」「感謝」「誠意」を大切に、これまでと変わらず、精一杯頑張っていきたいと思っております。今年度もよろしくお願いいたします。(記事: 辻原)

施設入所生活介護 新年度が始まりました。年度の区切りとして気持ちも新たに、施設入所では、利用者さんの高齢化、重度化に伴い、充実して安心して生活、健康面を大切にゆったりとした環境の中で生活を送れるよう、ご本人ご家族のニーズやスキルを高めて、個々の計画書を作成しながら、他事業所と連携を図り進めていきます。外部講師を招いたり、職員は研修に参加したり、それぞれにあったサービスを提供できるように努めていきたいと考えています。生活介護では、利用者が楽しく、活動できる環境を計画し、一人ひとりの希望やご本人の力が発揮できるように入所事業所と連携を図りながら外部の資源を活用したり、地域の行事に参加したりして利用者の生きがいや楽しみに繋げ、共生社会の実現にも努めていきたいと考えています。本年度もどうぞよろしくお願いいたします(記事: 市田)

就労継続支援B型事業

就労継続支援 B 型事業では利用者さんの働く場の提供として、奄美大島の伝統工芸である大島紬織り等の手工芸やパッションフルーツ等の季節の農産物を生産する農作業、そして奄美市より委託を受けている資源リサイクル作業に取り組んでいます。作業内容は様々ではありますが、利用者さん一人一人の個性を最大限に発揮できるよう、職員と一緒に試行錯誤を重ねながら、日々作業に取り組んでいます。物を作り上げる喜び、販売する喜び、そして工賃として還元される喜びなど人によって喜び方は様々ではありますが、今後も多くの喜びを利用者さんが実感できるよう、支援に努めていきたいと思っております。(記事: 田畑)

グループホームフレンド

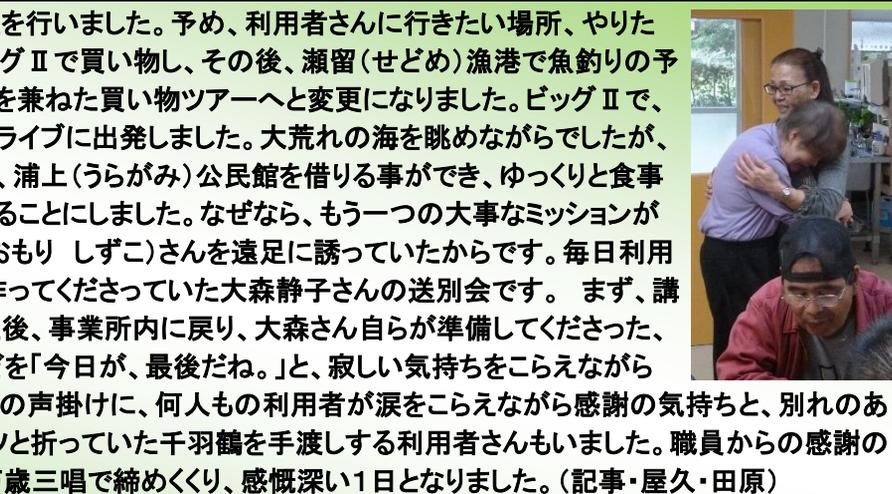
3月は10月からの個別支援計画のモニタリング会議がありました。利用者の意向を聞き、新年度4月から10月までの計画を立てました。利用者から「週末外泊をしたい。」「外出をしたい。」「旅行がしたい。」「コンサートに行きたい。」等それぞれの要望がありました。出来るだけニーズに応えられるよう、取り組んでいきたいと思っております。平成30年度は余暇支援の充実として、土日の余暇時間に外出や外食等を計画、実施しました。また、地域のイベント(まほろばウォーキング、市節分祭、まなびフェスタ)などにも参加し、利用者から「楽しかった。また参加したい。」との意見が多く、今年度は他にも利用者が楽しめるイベントがある時には情報提供をしていきたいと思っております。(記事: 福山)

ライオンキング再び!!

3月19日(火)にジャンベ奏者のBBモフランさん(コンゴ出身)と音楽療法 NPO ムジカトゥッティの多田羅 康恵(たたら やすえ)さんが来られました。モフランさんのジャンベから始まり、多田羅さんが教えてくださった、モフランさんの作った音楽に合わせた踊りは、大きな布を使って波や砂の表現をしたり、好きな踊りをしたりと利用者の皆さんも楽しそうに体で音楽を感じる事ができました。お二人の楽しい話やジャンベを聴き、利用者だけでなく職員もとても心弾む時間を過ごす事が出来ました。今後もお二人の来園を心待ちにしています。(記事: 山岡)

ありがとうをいつまでも...

3月29日(金)、延期になっていた遠足を行いました。予め、利用者さんに行きたい場所、やりたいことを決めてもらい、実施しました。ビッグIIで買い物し、その後、瀬留(せどめ)漁港で魚釣りの予定でした。当日は、あいにくの天気になり、ドライブを兼ねた買い物ツアーへと変更になりました。ビッグIIで、各々好きなジュースやお菓子を買って、本龍郷(ほんたつごう)方面へのドライブに出発しました。大荒れの海を眺めながらでしたが、お菓子を食ったり、おしゃべりをしたりと楽しい時間となりました。昼食は、浦上(うらがみ)公民館を借りる事ができ、ゆっくりと食事をする事が出来ました。その間も、雨は降り続き、私たちも早めに帰園することにしました。なぜなら、もう一つの大事なミッションが残っていたからです。それは、3月いっぱいまで退職される大森 静子(おおもり しずこ)さんを遠足に誘っていたからです。毎日利用者さんのために愛情のこもったおいしい弁当を作ってくださっていた大森静子さんの送別会です。まず、講堂で歌のプレゼント(なごり雪)を全員で合唱した後、事業所内に戻り、大森さん自らが準備してくださった、ちらし寿司やポテトサラダ、島野菜、ドーナツなどを「今日が、最後だね。」と、寂しい気持ちをこらえながら頂きました。「大森さんへごあいさつしたい方!」の声掛けに、何人もの利用者が涙をこらえながら感謝の気持ちと、別れのあいさつを交わしていました。中には、毎日コツコツと折っていた千羽鶴を手渡しする利用者さんもいました。職員からの感謝の気持ちと花束を贈り、最後に坂井 文也さんの万歳三唱で締めくくり、感慨深い1日となりました。(記事: 屋久・田原)



年間努力賞

- ・定原 たず子さん・落ち着いて園生活が送れました。
- ・塩崎 幸子さん・今年度は入院をする事なく過ごせました。
- ・幸 裕次郎さん・歩行を日常的に行う事が出来ました。
- ・岡山 いずみさん・ダイエットを頑張りました。
- ・竹田 美喜子さん・居室の掃除を頑張りました。
- ・中江 公三さん・お友達が歩きやすいように配慮してくれました。

- ・田中 國枝さん・病気に掛かる事無く 1年間健康に過ごせました。
- ・濱手 輝代さん・新しくGHに入所された方の洗濯等を手伝ってくれました。
- ・岩越 隆道さん・1年間、朝礼時の園歌斉唱を頑張り盛り上げてくれました。
- ・圓 初代さん・年間を通して、休まず楽しみながら初めてのお仕事に取組む事が出来ました。
- ・政岡 りつ子さん・お友達の洗濯物の手伝い等頑張りました。
- ・叶 絹代さん・お友達のシーツ交換を手伝ってくれました。

大島地区障害関係施設職員研修会

去る2月9日(土)に大島地区障害関係施設職員研修会が行

～改めて感じた「絆」の力～

われました。今年は滝の園が幹事園として研修会を進めて下さりました。研修会には群島内の施設から職員127名が参加し、愛の浜園からは24人の職員が参加しました。今年は「職場におけるメンバーシップとは？」

というテーマで、星窪きらりの大坂 太一(おおさか たいち)施設長が講師となり、127名が17グループに分かれてグループワークを行いました。充実した内容の研修であったことはもちろんですが、普段なかなか話をする機会のない、他の施設の職員、また、自分の職種とは違う多職種の方と話をする事ができ、とてもいい機会となりました。この研修会は年に1回の開催ですが、いつも参加して感じるの、同じ悩みや同じ喜びを分かち合える方がいる安心感や改めて愛の浜園の一員として仕事ができている事への感謝の気持ちです。「愛の浜園ではどうしていますか?」「愛の浜園ならどうしますか?」と聞かれたときに自信を持って答えることができるというのは、普段、職員がチームとなって仕事ができているからではないかと、「職場におけるメンバーシップ」を学ぶうちに改めて感じました。研修会が終わった後には山羊島ホテルで懇親会もありました。懇親会では余興や各事業所の商品が当たる抽選会もあり、大盛況でした。愛の浜園の余興では、ジャンベ隊としてお馴染みとなりつつある「愛の浜え〜ん♪愛の浜え〜ん♪」のリズムを刻みながら入場。「上を向いて歩こう」を披露し、会場が一体となって愛の浜園の世界観に包まれました。噂では、この独特なリズムが頭から離れなくなる方が多くいらっしゃるようで、時々事業所内で歌ってくれている方もいるようです…(笑)今回の研修会で学んだこと、この研修で改めて感じた愛の浜園の「絆」を大切に、利用者さんの安心した生活や楽しい生活に繋げていきたいと感じました。講師の大坂先生、参加された施設の方々、ありがとうございました。そして、朝早くから夜の懇親会までとても趣向を凝らした研修会を計画して下さいました滝の園の皆さん、本当にありがとうございました。滝の園のトマト、とっても美味しかったです。(記事:富田)



陶芸窯始動

2月の初窯も無事に終わり、いよいよ本格的に始動する陶芸活動



動の手始めとして、3月18日に宇検村の在宅福祉事業の一環として、10名の方が参加され陶芸教室がおこなわれました。それぞれが思い思いの作品づくりに没頭し、あっという間の2時間だったように思います。完成した作品は、今月(4月)中旬には引渡しの予定です。今回更新の窯は、園内での生産活動の充実を図ることと、窯を通して、地域に愛の浜園を知っていただくことが大きな目標です。陶芸教室を希望される方は、是非、ご連絡下さい。(記事:榮野)



初窯でコラボ作品完成
また、2月上旬には、職員や入所者と碗飯を作成。その後、大島高等学校の書道部の学生さんが「馬」の字を左右逆文字で筆入れをしてくれました。逆に表記された「馬」の文字は、左馬・逆さ馬と呼ばれ、左側から馬に乗れば倒れないとの言い伝えから、「人生を大過なく過ごせ福を招く」など縁起が良いとされることから、陶芸家などが初めて火を入れて焼成する窯で焼いた作品は、初窯と呼ばれ、こちらも縁起物とされるそうです。また、思いも思いの言葉や模様もいろいろ書いていただきました。ありがとうございました。(記事:恵(拓))



三賞受賞者



(親切賞)

・満林 アツ子さん…お友達の手を引いて食堂と一緒に移動してくれました。

(努力賞)

- ・碩 友美さん……脳波の検査を受ける事が出来ました。
- ・榮 敏郎さん……計算活動を頑張りました。
- ・榮 徹さん……絵画活動を頑張りました。
- ・定原 たず子さん…食後の食器の片づけを頑張りました。
- ・平山 和子さん…毎食後、歯磨き(入れ歯)を欠かさず頑張りました。
- ・池田 ヨシエさん…90歳の誕生日を元気に迎える事が出来ました。

(奉仕賞)

- ・東條 和三さん…作業前に倉庫裏の草取りを1人で頑張っていました。
- ・盛 重和さん・禎 文勝さん…ホームの周りの草取りをしてくれました
- ・叶 絹代さん……廊下の掃除を頑張りました。
- ・隈元 利彦さん…廊下や洗面台の掃除を頑張りました。
- ・岡山 いずみさん…色んな方のお話相手をしてくれました。

3月の愛の浜園



ジャンベ

就労作業風景

ウォーキング